

## 第6学年1組 国語科学習指導案

日 時 令和5年11月22日(水) 6校時  
 児 童 6年1組 20名  
 授業者 奥村 岳人

### 1 単元名 作品の世界をとらえ、自分の考えを書こう

教材名 「やまなし」宮沢 賢治 作 (「国語 六 創造」光村図書)

### 2 単元について

- ・本単元では、文章を読んで理解したことを基に、自分の考えをまとめることに焦点を当てる。宮沢賢治独特の描写を味わうとともに、その生き方に触れることを通して作品の世界観を捉え、解説する学習に取り組む。
- ・児童は「帰り道」の学習において、心内語や情景描写、視点などに着目して読む学習を行った。ここでは、2人の登場人物の視点を対比しながら読んだことで、登場人物の心情や相互関係を読み取ることができるようになった。また、着目した叙述から登場人物の心情や人物像、学習で分かったことをまとめることは大体できている。しかし、そこから自分がどう考えたり感じたりしたのかについて書いたり、対話によって考えを深めたことを言葉で表現したりすることは苦手である。
- ・授業者は、児童が自分の考えをまとめるために深く文章を読むことができるよう、発問を吟味して授業づくりをする必要がある。課題解決に向けた「とりかかる発問」と、考えを再構築するための「ゆさぶる発問」の二つの中心発問を組み込むことで、児童が自分の考えを整理し、表現できるようにしたい。交流場面においては、対話の目的に応じて話型や対話の言葉を使い分けることで、児童が自信をもって考えを交流し、深めることができるようにしたい。

### 3 単元の目標

[知識及び技能]	[思考力, 判断力, 表現力等]	[学びに向かう力, 人間性等]
①比喩などの表現の工夫に気付くことができる。  (1) ク	①文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。  C(1) オ  ②人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。  C(1) エ	①言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする態度を養うことができる。

### 4 単元の「課題解決的な言語活動」

物語と資料(作者の生き方・考え方)を重ねて読み、作品世界について考えたことを作品紹介リーフレットにまとめる活動(関連:言語活動例イ)

### 5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比喩などの表現の工夫に気付いている。  (1) ク	①「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。  C(1) オ  ②「読むこと」において、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。  C(1) エ	①表現や構成等に着目して、作品世界を捉えることに粘り強く取り組み、学習の見通しをもって自分の考えを書こうとしている。

6 指導と評価の計画（全10時間）

	主な学習活動	指導上の留意点	評価
1・2	○物語を読み、初発の感想を書く。 ○単元課題を確認し、学習計画を立てる。  ○リーフレットを書くための要素を確かめる。	・学習に興味や関心をもつために、単元扉や題名から作品について想像できることを交流する。 ・学習計画を立てるために、感想を交流する。 ・これまでの学習を想起し、作者の生き方や考え方が作品に反映されることがあることを確認する。 ・学習の見直しをもつために「作品紹介リーフレットを作る」という単元のゴールを示す。 ①物語のあらすじ ②心に残った表現 ③宮沢賢治が作品に込めた思い ④他の作品との共通点や相違点 ・宮沢賢治が作品に込めた思いや他作品との共通点を感じるために、並行読書を行う。	
3・4	○「五月」「十二月」で描かれている風景を簡単な絵や図で表し、作品のおおまかな内容を捉える。	・作品の構造を絵や図で表すために、「登場人物や物」「場面の様子」「出来事」「心情」に着目して表にまとめるよう指示する。 ・「五月」と「十二月」を対比できるように、上下に分かれた全文シートを用意する。 ・様子や出来事を視覚的に捉えさせるために、表した絵や図と文中の言葉とを照応したり、児童同士で見比べたりする時間を設ける。	【知・技①】 比喩などの表現の工夫に気付いているかの確認。 [発言・記述]
5・6・7・8 (本時)	○「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の生き方や考え方について知る。 ○「やまなし」の心を惹かれる表現に線を引き、その効果を考える。  ○「五月」「十二月」の世界を読み、それぞれの世界を一文で表す。  ○「五月」と「十二月」を比べ、宮沢賢治が作品に込めた思いや願いについて考える。	・出来事や言動について節目ごとに整理することで、宮沢賢治の生き方や考え方を捉えることができるようにする。 ・「比喩」「オノマトペ」「色彩語」などの宮沢賢治の独特な表現に着目することを確認する。 ・表現の効果について考えを深めるために、それぞれの表現をどう捉えたかを交流する場を設ける。 ・五月と十二月の世界を一文で表すために、中心人物である「かこの兄弟の目に映る世界の変容」を考える。 ・作品に込めた思いについて考えをもつために、「宮沢賢治の理想とする世界はどちらか」と問う。 ・対話の目的に応じて話型や使う言葉を意識させる。 ・作品全体に込めた思いに気付けるようにするために、「宮沢賢治の理想は十二月の世界」だと意見が偏ってきたところで、「宮沢賢治が十二月だけでなく、五月も描いたのはなぜか」と問う。	【思・判・表②】 宮沢賢治の身に起きた出来事や生き方から、宮沢賢治の人物像を具体的に想像しているかの確認。 [発言・記述] 【思・判・表②】 宮沢賢治の独特の表現から、作品に与える効果について考えているかの確認。 [発言・記述] 【思・判・表②】 「五月」と「十二月」を比べ、物語の全体像を具体的に想像しているかの確認。 [発言・記述]
9・10	○宮沢賢治の他の作品を読み、「やまなし」との共通点や相違点を考え、リーフレットにまとめる。  ○書いたリーフレットをもとに宮沢賢治の作品について交流し、単元のまとめを行う。	・既習事項である「表現の効果」「人物像」「中心人物の変容」「宮沢賢治の思いや願い」などについて、他作品と比較しながら共通点や相違点をリーフレットにまとめる。 ・共通点や相違点をまとめるために、並行読書で作品を選ばせておく。 ・交流を基に他作品を読み、自分の考えを広げる。	【思・判・表①】 宮沢賢治が作品に込めた思いについて、資料の叙述に基づいて自分の考えをまとめているかの確認。 [発言・記述] 【学習に取り組む態度①】 表現や構成等に注目して作品世界を捉えることに粘り強く取り組み、友達の考えと比べることで自分の考えを広げているかの確認。 [発言・記述]

7 本時の指導 (8/10)

(1) 本時の目標

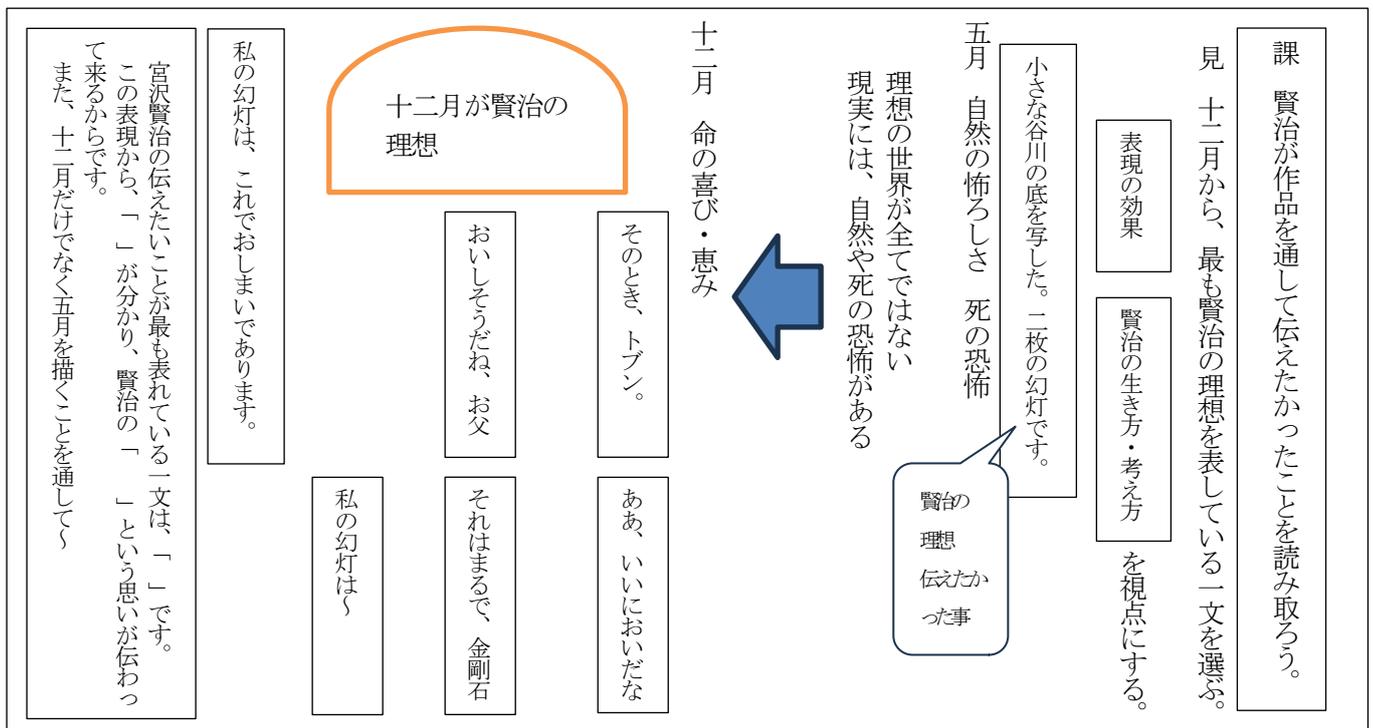
五月と十二月を比べて読み、宮沢賢治が二つの幻灯に込めた思いについて捉えることができる。

(2) 展開 (45分)

段階	学習活動	・指導上の留意点【視点に関わって】◇評価
導入 5分	1 前時までの学習を想起する。 2 学習課題を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童のリーフレットや振り返りから、前時の学習を振り返る。</li> <li>・リーフレットで紹介する「宮沢賢治が伝えたかったこと」をまとめる時間であることを確認する。</li> </ul>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">                     やまなしを通して賢治が伝えたかったことを読み取ろう。                 </div>	
展開 30分	3 課題解決のための見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品に宮沢賢治の思いが込められていることを共有するために、額縁構造について再確認する。</li> <li>【視点1ア：文章解釈のための発問の吟味「とりかかる発問」】 「宮沢賢治の理想が最も表れている一文はどれか」と問うことで本時の課題に迫る。</li> <li>・既習事項である、表現の効果や宮沢賢治の生き方や考え方を視点として、十二月が理想である根拠をはっきりさせることを確認する。</li> </ul>
	4 課題を解決する。 (1) 自力解決 (4分) ・最も理想が表れている一文を選ぶ。 (2) グループ学習 (8分) ・自分が考えを聞いてみたい相手を選び、対話する。 (3) 全体学習 ・発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全文シートに線を引いた中から、最も賢治の理想が表れている一文を選び、黒板にネームプレートを貼る。</li> <li>・表現の効果と、宮沢賢治の生き方や考え方のつながりを選ぶ視点とする。</li> <li>【視点2：考えを積み上げる対話】 宮沢賢治の理想とその根拠について、自分に合った相手と対話し、考えを深めることができるよう、フリートーク形式の話型を使う。</li> <li>・対話の足跡を残すために、ホワイトボードを準備し、自由に書き込めるようにしておく。</li> <li>・聞き合う中で、他の一文の方が自分の解釈に合っていると考えた際には、変えてよいことを伝える。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私は、「そのとき、トブン」を選びました。この表現から、やまなしが命を全うして落ちてきていることが分かり、賢治の最後まで命を全うしてほしいという思いが伝わって来るからです。</li> <li>・私は、「ああ、いいにおいだな」を選びました。この表現から、かにたちがやまなしから命のありがたみを感じていることが分かり、賢治の生きていることのありがたみを感じて生きてほしいという思いが伝わって来るからです。</li> <li>・私は、「もう二日ばかり～」を選びました。この表現から、やまなしが命と引き換えに喜びを与えてくれることが分かり、自分を犠牲にして人々を助ける賢治の生き方に似ているなど思ったからです。</li> </ul>	
	5 五月の必要性を考える。 (1) グループ学習 (2) 全体学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>【視点1イ：文章解釈のための発問の吟味「ゆさぶる発問」】 「宮沢賢治は、十二月だけでなく、五月も描いたのはなぜか」と考えをゆさぶる発問を投げかけることで、五月の必要性について考えられるようにする。</li> <li>・既習事項である「五月が表すもの」や「宮沢賢治の生き方や考え方」などを統合して、五月と十二月の対比から作品全体に込めた思いについて考えを深めることができるようにする。</li> <li>・全体で五月の必要性を共有することで、考えを形成するための材料となるようにする。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・賢治は、十二月だけでなく五月を描くことを通して、自然の恐ろしさや死の恐怖があるからこそ、命を全うする喜びが強くなることを伝えたかったのだと思います。</li> <li>・賢治は、十二月だけでなく五月を描くことを通して、自然の厳しさと恵みの両方を伝えたかったのだと思います。自然災害の怖さを経験している賢治だからこそ、命を大切にしてほしいという強い思いを込めたのだと思います。</li> </ul>	

終末 10分	6 学習をまとめる。	・ロイロノートを使って、宮沢賢治が作品を通して伝えたかった事とその理由について考えたことをリーフレットまとめるよう指示する。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「やまなし」で宮沢賢治の理想が最も表れている一文は、「 」です。 この表現から、「 」が分かり、賢治の「 」という思いが伝わって来るからです。 また、十二月だけでなく五月を描くことを通して、「 」です。</p> </div>	
	7 振り返りをする。	◇「五月」と「十二月」を比べ、「十二月」の叙述を根拠にして物語の全体像を具体的に想像しているかの確認。 〔発言・リーフレットの記述〕
	8 次時の確認をする。	○振り返りの視点を与えて本時の学習を振り返る。

## 8 板書計画



## 9 本時の授業改善の視点

### 【視点1ア：文章解釈のための発問の吟味「とりかかる発問」】

本時は、二つの幻想を対比して読むことで筆者である宮沢賢治が作品を通して伝えたかったことを捉える学習である。そこで、「賢治の理想が最も表れている一文はどれか」と問う。既習事項である「表現の効果」と、「賢治の生き方・考え方」を結び付け、賢治の思いや願いが最も伝わってくる一文を探すことで本時の課題に迫りたい。

### 【視点2：考えを積み上げる対話】

初めに自力解決を行い、自分との対話ができる時間を保障する。次に、交流を通して考えを広げ、個人で考えを再構築するための「深め対話」としてフリートークを行う。自分の考えを深めることができる相手を選択し交流することで、賢治の作品に込めた思いについて考えを形成することができるようにしたい。

### 【視点1イ：文章解釈のための発問の吟味「ゆさぶる発問」】

賢治の理想が十二月にあると児童の考えが固まってきたところで、「賢治は、十二月だけでなく、五月も描いたのはなぜか」と考えを揺さぶる発問を投げかける。死の恐怖がある現実の世界があつてこそ、命の喜びが強くなることを「やまなし」全体を通して伝えたかったのだと捉えさせたい。